

平成25年度事業マネジメントシート（事務事業）

担当課 環境生活部 文化振興課

事業概要

細事業名	豊かな体験活動推進事業費					区分	継続	
施策	262	生涯学習の振興						
基本事業	26201	学びあう場の充実						
	目標項目		24年度現状値		27年度目標値			
	県立生涯学習施設の利用者数		700,446人		855,000人			
選択・集中								
重点化施策								
根拠 (法令等)	第3次三重県生涯学習振興計画 三重の文化振興方針							
予算額等	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	予算額 (千円)		10,305	12,414	12,048			
	決算額 (千円)		10,782	12,017				
事業の目的	子ども達に文化を単に鑑賞させるだけでなく、参加体験や授業との連動などを通じて、豊かな感性と創造性を育むとともに本県の文化の継承、発展につなげます。							
事業目標	文化体験パートナーシップ活動推進事業の実施プログラム数 50プログラム							
前年度からの変更点	特にありません。							
事業の必要性と期待される効果	<p>子ども達に、本物の文化体験等の豊かな感性と創造性を育む機会を提供することにより、次世代の文化活動の担い手を育成し、本県における文化の継承と発展の基盤を強化する必要があります。</p> <p>また、生涯学習センター、斎宮歴史博物館及び県立美術館においては、次世代を担う子ども等を対象とした体験事業等の実施にあたり、関係する施設や活動団体等のさまざまな主体の参画を得ながら、体験プログラムの充実を図るとともに、人材の発掘・育成などに取り組み、学校との有効な連携をしていくことが期待されます。</p>							

## 取組詳細

取組概要	県立美術館、斎宮歴史博物館及び生涯学習センターにおいては、文化芸術に対する感性を育み、本県の文化の継承、発展につなげるため、次世代を担う子ども等を対象に参加体験型の学習機会を提供します。
取組内容等	

### ① 文化体験パートナーシップ活動推進事業 5,000千円(0千円)

県の「文化と知的探究の拠点」である文化会館、図書館、博物館、美術館、斎宮歴史博物館や地域の文化団体等、多様な文化の担い手である主体が、県生涯学習センターのコーディネートのもと、芸術家や専門家を学校等に派遣し子どもたちにさまざまな本物の文化体験ができるアウトリーチ事業等(音楽系など)を実施するとともに、取組を継続して実施できる仕組みづくりと活動を支える人材の育成に取り組めます。

### ② 歴史体験事業 5,553千円(5,553千円)

- ・いつきのみや歴史体験館で、歴史と地域文化の体験を通じ、平安文化および地域文化への理解を促進します。
- ・斎宮跡を利用する学校を対象とした、体験活動を支援、平安時代の歴史と地域文化の理解に寄与します。

### ③ 美術体験事業 1,861千円(0千円)

第一線で活躍しているアーティストを招へいし、ワークショップを通じて創作の秘密に迫ることで、子どもたちの感受性と創造力を高めます。ここで得られた貴重な体験は、美術鑑賞のためのワークシートに変換し、学校団体鑑賞の際などにより、広範囲に有効利用します。

## 年間実施結果

### 取組結果

- ①文化体験パートナーシップ活動推進事業については、年間59プログラムを実施し、2,193の方が受講しました。
- ②「歴史体験事業」を(公財)国史跡斎宮跡保存協会に委託し、「いつきのみやの四季」「講座 with 体験」「小中学生体験学習支援事業」「体験サポート事業」をいつきのみや歴史体験館で実施し、18,347名の参加者がありました。
- ③美術館体験事業については、「彫りたい人のためのワークショップ」「絵になるデザート」を開催し、43名の参加がありました。また、大橋歩さんによるアーティストトークを美術館講堂で開催し、153名の参加がありました。

### 成果と残された課題

#### (1) 成果

- ・文化体験パートナーシップ活動推進事業については、たくさん子ども達に、豊かな感性と創造性を育む本物の文化を体験する機会を提供することができました。
- ・歴史体験事業については、式年遷宮における情報の増加やイベント効果により、体験館利用者が増加し、

多くの方に平安文化及び地域文化などへの理解を深める機会を提供できました。

(2) 課題

- ・文化体験パートナーシップ活動推進事業を、より多くの学校にプログラムを提供できるよう、コーディネーターの養成などが必要です。
- ・歴史体験事業は、遷宮明けの年であり史跡整備の工事が開始されることから、昨年からの増加傾向を維持し、史跡全体への関心を高めていく必要があります。

総	見直しの視点
	<input type="checkbox"/> 事業目的の妥当性 <input type="checkbox"/> 県関与の必要性 <input type="checkbox"/> 手段の有効性 <input type="checkbox"/> 手段の効率性 <input type="checkbox"/> 緊要性 <input checked="" type="checkbox"/> 該当なし
合	見直しの方向
	<input type="checkbox"/> 廃止(廃止) <input type="checkbox"/> 廃止(民営化) <input type="checkbox"/> 廃止(国へ移譲) <input type="checkbox"/> 廃止(市町へ移譲) <input type="checkbox"/> 廃止(休止) <input type="checkbox"/> 見直し・縮小(要改善) <input type="checkbox"/> 統合化(要改善) <input type="checkbox"/> 終期設定(要改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現行通り <input type="checkbox"/> 拡充
判	民間活力の活用
	<input type="checkbox"/> 人材派遣 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> P F I 等 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度 <input type="checkbox"/> 地方独立行政法人 <input checked="" type="checkbox"/> 現行通り
断	今後に向けた改善のポイントと取組方向
	<p>(1) 見直しの視点・方向、民間活力の活用の判断理由          専門的なノウハウのある機関へ事業を委託します。</p> <p>(2) 課題への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化体験パートナーシップ活動推進事業については、年々申し込みが増加していることから、育成に取り組んだ人材を活用し、取組を継続していきたいと考えています。</li> <li>・歴史体験事業については、史跡整備にともなう周辺環境の変化等に配慮し、史跡を楽しむこととさらに連動させ、斎宮という場を生かした厚みのある体験事業として充実させていきます。</li> </ul>